

【主題】泥団子作りを通しての学びと成長

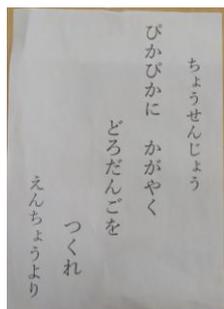
【副題】作る・磨く・輝く～考える力と挑戦する心～

長岡和光幼稚園なごみ保育園

くじら組 5歳児

1. 主題設定理由（目的）

4月に園長先生から挑戦状「ぴかぴかにかがやく泥団子を作れ」が届いたため、実践した。



2. 子どもの様子や研究内容（実践）

第1回目（7月6日）

【自由に作ってみる】

・二人ペアで園庭にある二種類の砂を使い、水や砂の量を友だちと相談しながら制作する様子が見られた。水を運ぶ子、砂を掘ってバケツに入れる子と役割を決めて取り組んでいた。しかし、水をくむことが楽しくなり、次第に集中が途切れてしまい、なかなか形にならなかった。



・一人ひとつ完成した泥団子を、園庭わきの階段に保管した。別の活動で戸外に出た際、保管してある泥団子を気にして確認する子もいた。ひびが入って崩れていることに気づいたが、崩れたことに疑問を持つ子はいなかった。しかし、再度挑戦しようとする姿も見られたため、二回目を実施した。



第2回目（8月28日）

【道具の工夫】

・保育室で自由遊びをしている際に、泥に関する絵本を見つける子がいた。その本に泥団子の作り方が書いてあることに気づき、興味を持った子どもたちの意欲がさらに高まった。そこで、いつでも作り方を見られるように、絵本のページを保育室に掲示した。(資料①)すると、掲示された内容の中に「ふるい」を使っている場面があることに気づき、保育者に伝える子がいた。その後、保育者が「実際にふるいを使ってみよう」と提案し、子どもたちと一緒に試してみることにした。



・最初は園の砂場用のふるいを使ったが、網目が大きく、石が落ちてしまったため、園で用意したふるい（網目が細かい）を使うと石のない砂を作ることが出来た。網目の大きさの違いに気づく子もおり、周りの子にもどちらを使ったらいいかを教える姿が見られ、友達と協力しながら作っていた。



第3回目（9月27日）

【土選び・保管方法の工夫】

・実施前に、一回目に作ったきれいな形の泥団子をみんなで共有すると、「きれい!」「私も作りたい!」と興味を持つ子が多かったため、その泥団子を作った子に、どのように作ったのか、どちらの砂を使ったのかを聞いてみることにした。作った子は「最初は粗い砂を使って、そのあと細かい砂で仕上げたよ!」と自分なりの工夫を伝えたり、「水は少しずつ混ぜたよ」とポイントを教えたりする様子が見られた。それを聞いた子どもたちは、「じゃあ私もやってみよう!」「こうしたらきれいな丸になるかな?」と、試しながら自分なりの泥団子作りに挑戦していた。

<使用した砂>

- ・赤土の砂

<作り方>

- ① 水と混ぜた砂を使って形を整える。
 - ② 乾いた砂をかけて固くする。
- ※①と②を交互に繰り返し行った。

・2回目までは2人ペアで友だちと協力し、相談しながら作っていたが、3回目からは1人で試行錯誤しながら作る姿が見られた。

・また、ピカピカにするための方法を探る中で、絵本に「袋に入れて水滴がつくまで保管するとよい」と記載されていることに気づき、実際に試してみることにした。子どもたちは「本当にツヤツヤになるかな?」と期待しながら袋に入れて保管しており、保管後の泥団子を触ってみると、「なんだかしっとりしてる!」「もっとツルツルになるかも!」と驚きの声上がり、新たな発見を楽しんでいた。



・戸外遊びの際、保管してある泥団子の袋に水滴がついていないか確認する姿が見られた。水滴がついていると、袋から取り出して保育室で乾燥させる様子が見られた。



第4回目（10月1日）

【磨いてみる】

・泥団子をピカピカにするために、本を見ながら「磨こう!」「タオルとビンの底を使うんだよ!」と、乾いた泥団子を一生懸命磨く姿が見られた。しかしタオルで磨いているうちに、泥団子が崩れて小さくなってしまった。崩れた泥団子を再度固めようと試みたが、砂が乾いていてなかなかまとまらず、タオルで磨く案はうまくいかなかった。



・すると数日後、Mちゃんが「これ使っていいよ」と家庭からビンを持ってきてくれた。早速ビンの底で磨いてみたが、タオルと同様に泥団子が崩れてしまい、ビンの方法も失敗に終わった。

第5回目（10月15日）

【再挑戦】

・磨く工程で崩れてしまったため、作り直すことにした。今までの経験を活かし作り方のコツを思い出しながら、子どもたちは再び挑戦していた。前回までは1人1個だったが、コツを掴んでいくうちに、次第に3個、4個と泥団子を作る姿が見られるようになった。



【新たな砂で挑戦】

・ 戸外遊びで愛宕公園に行った際、「泥団子作ってみたい」との声があり、数名の子どもたちが作った。作る際には水を使用しなかったが、前日の雨で地面が濡れていたため、砂だけでもしっかりと固めることができた。形を作る際には広場側の砂を使い、仕上げには遊具側の砂を使うなど、工程に合わせて砂を上手に使い分ける姿が見られた。



・ 完成した泥団子を袋に入れて、園に持ち帰った。



第6回目（11月19日）

【色塗り】

・ 次のステップとして、泥団子をピカピカにする方法をみんなで考えると、「絵の具で塗るのはどう？」と提案したRちゃんに、他児も「いいね！」と賛成し、色を塗ることに決めた。しかし実際に塗ってみると、筆に砂がついてしまい、上手く塗ることができなかった。そこで、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、一度白く塗ってから色を付ける方法を試してみることにした。また塗る際には、ひびが割れないように力加減を自分で考えながら、慎重に塗る姿が見られた。子どもたちは工夫しながら進めていき、最終的にはきれいに塗ることができ、満足そうな表情を浮かべていた。



・ 白く塗った泥団子に、子どもたちは思い思いの方法で色を塗っていた。一色で塗る子、色を混ぜてオリジナルの色を作る子、さらにはグラデーションをつけて丁寧に仕上げる子など、それぞれ工夫する姿が見られた。また他の子が塗る様子を見て「僕もやりたい！」と興味を持ったり、友だち同士で「この色きれいだね!」「どうやって塗ったの?」と会話をしながら、お互いのやり方を参考にしたり、刺激を受けたりする場面もあった。自分のアイデアを活かしながら、オリジナル泥団子が次々と生まれていき、子どもたちは達成感を味わいながら楽しんでいった。



第7回目（12月16日）

【園長先生に完成した泥団子を見せる】

- ・完成したピカピカの泥団子を園長先生に見てもらおうと、「どうやって作ったの？」という園長先生の質問に対して工程を自分の言葉で丁寧に説明する子もいれば、「これ、私が作ったよ！見て！」と嬉しそうに見せる子もいた。
- ・また、友だち同士で「〇〇ちゃんの泥団子、すごくきれいだよね！」と褒め合う姿も見られた。園長先生から「とてもきれいだね！」と声をかけてもらうと、さらに自信を持ち、満足そうな表情を浮かべる子どもたち。自分たちの工夫や努力が認められたことで、達成感を味わい、次の挑戦への意欲も高まっている様子が見られた。



【保護者に完成した泥団子を掲示】

- ・子どもたちが一生懸命作った泥団子を、園のギャラリーに掲示した。個別懇談の期間に展示することで、保護者の方々にも子どもたちの頑張りを見てもらえるようにした。自分の泥団子を指さしながら「これ、私の！」と誇らしげに伝えたり、保護者と一緒に眺めながら嬉しそうなお顔を浮かべる姿も見られた。その後、完成した泥団子は各家庭に持ち帰り、「家に飾ったよ！」と嬉しそうに報告してくれる子もいた。

<まとめ>

- ・泥団子作りを通して試行錯誤を重ねながら、よりピカピカに仕上げる方法を学ぶことができた。初めはうまく形を作れなかったり、磨く工程で崩れてしまったりと、思い通りにいかないこともあったが、そのたびに「どうしたらうまくいくかな？」と考え、友だちと意見を出し合いながら工夫する姿が見られた。
- ・ふるいを使って細かい砂を選ぶことや、水分量の調整、磨く力加減など、さまざまな発見を積み重ねる中で、子どもたちは自分なりのコツをつかみ、自信をもって取り組むようになった。また、友だちのやり方を見て学んだり、「こうするといいよ！」と教え合ったりすることで、協力する楽しさや達成感も味わうことができたように感じる。
- ・活動後も、園庭遊びの際に自主的に泥団子作りをする姿が見られ、遊びがさらに広がったように思う。友だちと意見を出し合いながら試す姿や、「次はこうしてみよう！」と新たな挑戦をする姿からは、学ぶことの楽しさや達成感を感じていることが伝わってきた。この経験を通して身につけた工夫する力や、諦めずに取り組む姿勢を、今後のさまざまな場面でも活かしてほしいと思う。

【資料①】

